

家基313「高等学校 家庭基礎 グローバル&サステナビリティ」シラバス（指導計画案） [2単位 70時間]

目 標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
-----	--

学期	月	章	項目	時間	学習のねらい・目標	備考
1 学期	4	I 第1章 青年期の自立と家族	1 人の一生とライフステージ 1. 人の一生を考えてみよう 2. 生涯発達とライフステージ 3. 青年期を生きる 4. 意思決定の重要性と共生 2 現代の家族 1. 家族の変化と現在 3 家庭生活の成り立ち 1. 家庭生活を支える労働 2. 家庭生活と家族関係 4 家族と社会 1. 家族と法律 2. 家族問題と支える仕組み	6	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生を生涯発達の視点で捉えることができる。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生涯を見通し，青年期をどのように生きるか考えることができる。 ・社会の変化に伴う家族の変化について理解する。 ・家族と社会のかかわりや，現代の家族・家庭の特徴について理解する。 ・家庭生活を支える職業労働と家事労働の特徴を理解する。 ・男女が協力して家庭をつくることの意義を理解する。 ・家族関係の特徴を理解し，よりよいあり方について考えることができる。 ・家庭生活を支える基本的な法律について理解する。 ・現代の家族問題と，解決のための社会的な仕組みについて理解する。 	
	5	I 第2章 子どもの発達と保育	1 子どもの発達を学ぶ 1. 子どもの心身の発達 2. 体の発達 3. こころの発達 2 子どもの生活を知る 1. 子どもの遊び 2. 子どもの生活と生活習慣 3. 子どもの食事 4. 子どもの健康と安全 3 子どもと育ち合う 1. 自分の未来像としての“親” 4 社会が子どもを育てる 1. 子どもを取り巻く環境 2. 子育て支援 3. 子どものすこやかな育ちのために	9	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達の特徴について理解する。 ・乳幼児期の発達段階の重要性を理解する。 ・子どもの発達における遊びの意義について理解する。 ・子どもの生活習慣・食事・健康と安全の重要性を理解する。 ・実際に子どもとふれ合う際に，子どもと適切にかかわることができる。 ・親の役割や子どもを生み育てることの意義について考えることができる。 ・子育てを通じて，親自身も人間的に成長することを理解する。 ・現代の子どもを取り巻く環境の問題について理解する。 ・社会全体で子育てを支援し，子育ての環境整備を行うことの重要性を理解する。 ・子どもの権利や福祉について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の実態等に応じて，学校家庭クラブ活動等との関連を図り，乳幼児とのふれ合いなどの実践的な活動を取り入れられるとよい。 ・子どもの発達を支えるための親の役割や子育てを支援する環境に重点を置く。
	6					

学期	月	章	項目	時間	学習のねらい・目標	備考	
1 学期	6	I 第3章 高齢期の生活	1 超高齢社会を生きる 1. 高齢社会の現状 2 高齢期の心身の特徴と暮らし 1. 高齢期の心身の特徴 2. 高齢者の暮らし 3 高齢期の暮らしを支える仕組み 1. 高齢期の経済を支える制度 2. 高齢者介護と介護保険制度 3. 地域で支える高齢社会	5	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の一時期として高齢期を捉え、自分の将来像としての高齢期について考えることができる。 ・高齢者を取り巻く社会の課題について理解する。 ・高齢期の心身の特徴について理解する。 ・高齢者の生活について知り、社会的な支援のあり方について考えることができる。 ・高齢者を支える基本的な制度や仕組みについて理解する。 ・高齢者を支える地域の役割について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動等との関連を図り、高齢者との交流などの実践的な活動を取り入れられるとよい。 	
	7	I 第4章 共生社会と福祉	1 共生社会の実現のために 1. ともに生き、支え合う社会 2. 共生社会の理念 3. 地域福祉 4. ボランティア活動と NPO	4	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の重要性について理解する。 ・共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え、工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本的な理念に重点を置く。 	
2 学期	9	II 第1章 食生活と自立	1 人が食べるということ 1. 人の一生と食 2. 食と文化 2 栄養と食品 1. 栄養 2. 食品 3 食品の選択と取り扱い 1. 食品の選択と保存 2. 食品の衛生と安全 4 献立作成 1. 何をどれだけ食べればよいか 2. 献立作成 5 調理の基礎 1. 調理、配膳、後片付け つくってみよう（調理実習） 6 これからの食生活 1. 持続可能な食生活のために 2. 自立した食生活のために	17	<ul style="list-style-type: none"> ・食事と健康とのかかわりや、人の一生における食事の役割について理解する。 ・日本の食文化を知り、食生活を創造する主体であることを認識する。 ・栄養素の種類や機能について理解する。 ・おもな食品の特徴について理解する。 ・食品の適切な選択・保存方法について理解する。 ・食品の衛生と安全について理解する。 ・日常生活の中で目的に合った食品を選び、取り扱うことができる。 ・各ライフステージの栄養にかかわる課題を理解する。 ・ライフステージに合わせた献立を考え、工夫することができる。 ・各調理法の特徴を理解し、安全で衛生的、かつ、環境に配慮した効率的な調理技術を身につける。 ・料理の盛り付けや配膳、食事のマナーの基本を理解し、日常生活で実践できる。 ・現代の食生活の問題や課題について理解する。 ・持続可能な食生活、安全で健康な食生活について考え、工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習を中心とした指導を行うよう留意する。 ・実験・実習の際は、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分に留意する。 ・栄養、食品、調理及び食品衛生との関連を図って扱うようにする。 	
	10						
	11						

学期	月	章	項目	時間	学習のねらい・目標	備考
2学期	11	Ⅱ第2章 衣生活と自立	1 衣生活を管理する 1. 衣生活の成り立ち 2. 衣生活の管理 2 衣服を着る 1. 着ることの意味 2. 安全・健康・快適に着る 3. 社会の中で着る 4. 自分らしく着る 3 衣服の成り立ち 1. 衣服の素材 2. 衣服素材の性能と着心地 3. 衣服の構成 4 衣服と消費者 1. 既製服の製造・流通・販売 2. 衣服の表示 5 衣服の手入れ 1. 洗濯 2. 仕上げ・保管 3. 衣服の補修（リペア） 6 着なくなった衣服の処分 1. 衣服の3R 2. 着なくなった衣服を活用するために	7	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活の成り立ちについて理解する。 ・主体的に衣生活を管理する重要性について理解する。 ・人間の生活と衣服のかかわり、衣服のおもな機能について理解する。 ・ライフステージや各場面に適した衣服を選択し、自分らしく工夫することができる。 ・衣服の素材（繊維、糸、布）の種類や特徴について理解する。 ・衣服素材の性能・着心地や構成について理解する。 ・衣服の消費行動の注意点を理解する。 ・衣服の表示から得られる消費者情報を、日常の衣生活の中で活用することができる。 ・洗濯の特徴を科学的に理解する。 ・衣服表示に基づき、適切な洗濯・仕上げ・保管ができる。 ・衣服の基礎的な補修を、実践することができる。 ・衣服の3R（リデュース・リユース・リサイクル）の重要性を理解する。 ・資源としての衣服の循環を意識し、着なくなった衣服の適切な活用方法を工夫し、実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習を中心とした指導を行うよう留意する。 ・実験・実習の際は、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分に留意する。
	12		1 住まいを見つめる 1. 住まいについて考えよう 2. 住まいの空間と家族の生活 3. 住まいの空間の構成 2 安全で健康な住まい 1. 安全な住まい 2. 衛生的な住まい 3 これからの住生活と住環境 1. みんなでつくるまち・住まい 2. 住宅事情と住宅政策 3. 住まいの維持と管理 4. 地球環境にやさしい住まい 5. 多様な居住形態と多様な住まい	7	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいのおもな機能について理解する。 ・家族の生活に応じた適切な住まいについて考えることができる。 ・平面図から、基本的な情報を読み取ることができる。 ・安全で衛生的な住まいの条件について科学的に理解する。 ・自分の住生活を点検し、快適な住生活のための対策を具体的に考え、工夫することができる。 ・さまざまな人にとって快適な住環境について理解し、地域コミュニティと共生できるまちづくりを考えることができる。 ・日本の住宅事情や課題を理解し、自分らしい住まい方を工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習を中心とした指導を行うよう留意する。 ・実験・実習の際は、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分に留意する。
3学期	1	Ⅱ第3章 住生活と自立				

学期	月	章	項目	時間	学習のねらい・目標	備考
3 学期	1	Ⅱ 第4章 消費生活と経済	1 経済的な自立を目指して 1. 暮らしに必要なお金 2. 見えないお金との付き合い方 2 将来の経済生活を見通す 1. 計画的なお金の準備 2. リスクに備える 3 消費者の意思決定 1. 消費者市民になるために 4 消費者問題の発生と消費者の権利 1. 消費者問題の発生 2. 契約とは 5 消費者市民社会の実現に向けて 1. 家計の消費支出の影響	8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も含めた家族の生活費と家計との関係を認識する。 ・現代の家計の特徴を知り、消費者信用の適切な活用について理解する。 ・生涯を見通した経済計画の重要性について理解する。 ・生涯賃金、働き方も含め、リスクへの対応を考えることができる。 ・自分の消費行動の社会への影響力を認識し、適切な意思決定ができる。 ・消費者問題について理解する。 ・消費者の権利や消費者支援の制度について理解する。 ・適切な消費行動について考え、実践することができる。 ・消費者市民社会の実現に向けて、自立した消費者として主体的に行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを取り上げて、具体的に扱うようにする。
	2		Ⅱ 第5章 ライフスタイルと環境	1 持続可能な社会の実現を目指す 1. 持続可能な社会 2. 地球環境保全のための社会づくり 2 消費者としてできること 1. 地球にやさしい消費者になろう 2. 身近な生活から持続可能な社会をつくろう	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の暮らしが地球環境に与える影響について理解する。 ・地球環境保全のための社会づくりの重要性について理解する。 ・持続可能な社会を目指し、自分のライフスタイルについて見直すことができる。 ・環境に配慮した消費行動について具体的に考え、行動することができる。
	3	生活設計	人生を設計してみよう	2	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭基礎の学習を生かし、将来の生活に向かって目標を立て、自分らしい生活を設計することができる。 	
				学んだことを生活に生かそう (ホームプロジェクトと学校家庭クラブ)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の課題を見つけ、その改善方法を考え、実践することができる。また、実践を振り返り、さらなる学習へとつなげることができる。

家基 313 「高等学校 家庭基礎 グローバル&サステナビリティ」 評価規準の設定例 【2 単位 70 時間】

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
I 第1章 青年期の自立と家族				
1 人の一生とライフステージ 1. 人の一生を考えてみよう 2. 生涯発達とライフステージ 3. 青年期を生きる 4. 意思決定の重要性と共生 2 現代の家族 1. 家族の変化と現在 3 家庭生活の成り立ち 1. 家庭生活を支える労働 2. 家庭生活と家族関係 4 家族と社会 1. 家族と法律 2. 家族問題と支える仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの発達課題に関心を持ち、よりよく生きるための課題解決について具体的に考えようとしている。 青年期の課題や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉え、考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通し、青年期をどのように生きるか具体的に考え、まとめている。 男女が協力して家庭をつくることの意義について具体的に考え、まとめたり、発表したりしている。 実習などを通して、家族関係のよりよいあり方について考え、まとめたり、発表したりしている。 職業労働のあり方について、仕事と生活の調和という視点で考え、まとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例研究などに必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各ライフステージの特徴と課題を理解している。 社会の変化に伴う家族の機能の変化について理解している。 家族と社会のかかわりや、現代の家族・家庭の特徴について理解している。 家庭生活を支える職業労働と家事労働の意義と特徴について理解している。 家庭生活を支える基本的な法律や制度、社会的な仕組みについて理解している。
I 第2章 子どもの発達と保育				
1 子どもの発達を学ぶ 1. 子どもの心身の発達 2. 体の発達 3. こころの発達 2 子どもの生活を知る 1. 子どもの遊び 2. 子どもの生活と生活習慣 3. 子どもの食事 4. 子どもの健康と安全 3 子どもと育ち合う 1. 自分の未来像としての“親” 4 社会が子どもを育てる 1. 子どもを取り巻く環境 2. 子育て支援 3. 子どものすこやかな育ちのために	<ul style="list-style-type: none"> 実践的・体験的な活動を通して保育に関心を持ち、学習に取り組もうとしている。 保育の重要性や社会の果たす役割について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達における遊びの意義について考え、まとめたり、発表したりしている。 親の役割や子どもを生み育てることの意義について考えたり、まとめたり、発表したりしている。 現代の子どもを取り巻く環境の問題について考え、まとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に子どもとふれ合う際に、子どもと適切にかかわることができる。 子どもの権利や福祉について、具体的な法律や制度などの情報を収集・整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの心身の発達の特徴について理解している。 乳幼児期は人間の発達段階の重要な時期であることを理解している。 子どもの発達における遊びや環境の意義を理解している。 子どもは生活の中で、人との関わりを通して育つことを理解している。 子育てを通じて、親自身も人間的に成長することを理解している。 子どもの権利や福祉について理解している。 社会全体で子育てを支援し、子育ての環境整備を行うことの重要性を理解している。

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
I 第3章 高齢期の生活 1 超高齢社会を生きる 1. 高齢社会の現状 2 高齢期の心身の特徴と暮らし 1. 高齢期の心身の特徴 2. 高齢者の暮らし 3. 高齢期の暮らしを支える仕組み 1. 高齢期の経済を支える制度 2. 高齢者介護と介護保険制度 3. 地域で支える高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の一時期として高齢期を捉え、自分の将来像としての高齢期について考えようとしている。 ・ 地域の一員として、高齢者を支える活動を主体的に調べたり、参加したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を取り巻く社会の課題について考え、まとめたり、発表したりしている。 ・ 高齢期の生活や、社会的な支援のあり方について具体的に考え、まとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢者福祉サービスについて、調査したり、整理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢期の心身の特徴について理解している。 ・ 高齢者を取り巻く社会の課題について理解している。 ・ 高齢期を支える基本的な制度や仕組みについて理解している。
I 第4章 共生社会と福祉 1 共生社会の実現のために 1. ともに生き、支え合う社会 2. 共生社会の理念 3. 地域福祉 4. ボランティア活動とNPO	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを主体的に考え、行動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域における地域福祉の取り組み事例や、NPOの活動などについて、情報を収集・整理したり、参加したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会の重要性について理解している。
II 第1章 食生活と自立 1 人が食べるということ 1. 人の一生と食 2. 食と文化 2 栄養と食品 1. 栄養 2. 食品 3 食品の選択と取り扱い 1. 食品の選択と保存 2. 食品の衛生と安全 4 献立作成 1. 何をどれだけ食べればよいか 2. 献立作成 5 調理の基礎 1. 調理、配膳、後片付け つくってみよう（調理実習） 6 これからの食生活 1. 持続可能な食生活のために 2. 自立した食生活のために	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族の食生活について関心をもち、主体的に学習を進めようとしている。 ・ 日本の食文化を主体的に伝承・創造することの意義について、主体的に考え、行動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の食文化を主体的に伝承・創造することの意義について考え、まとめたり、発表したりしている。 ・ ライフステージに合わせた献立を考え、工夫している。 ・ 持続可能な食生活、安全で健康な食生活について考え、工夫している。 ・ 衛生的、かつ、環境に配慮した効率的な調理について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中で目的に合った食品を選び、取り扱うことができる。 ・ 衛生的、かつ、環境に配慮した効率的な調理技術を身につけ、基礎的な調理ができる。 ・ 料理の盛り付けや配膳、食事のマナーの基本を理解し、日常生活で実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の食文化、食生活を創造する主体であることを理解している。 ・ 食事と健康とのかかわりや、人の一生における食事の役割について理解している。 ・ 栄養素の種類や機能について理解している。 ・ おもな食品の特徴について理解している。 ・ 各ライフステージの栄養にかかわる課題を理解している。 ・ 食品の適切な選択・保存方法について理解している。 ・ 食品の安全と衛生について理解している。 ・ 各調理法の特徴について、調理器具の特徴や取り扱い方などと関連させて理解している。 ・ 現代の食生活の問題や課題について理解している。

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
II 第2章 衣生活と自立 1 衣生活を管理する 1. 衣生活の成り立ち 2. 衣生活の管理 2 衣服を着る 1. 着ることの意味 2. 安全・健康・快適に着る 3. 社会の中で着る 4. 自分らしく着る 3 衣服の成り立ち 1. 衣服の素材 2. 衣服素材の性能と着心地 3. 衣服の構成 4 衣服と消費者 1. 既製服の製造・流通・販売 2. 衣服の表示 5 衣服の手入れ 1. 洗濯 2. 仕上げ・保管 3. 衣服の補修（リペア） 6 着なくなった衣服の処分 1. 衣服の3R 2. 着なくなった衣服を活用するために	<ul style="list-style-type: none"> 人間の生活と衣服のかかわり、衣服のおもな機能について理解しようとしている。 ライフステージや各場面に適した衣服を選択し、自分らしく工夫しようとしている。 資源としての衣服の循環を意識し、着なくなった衣服の適切な活用方法を工夫し、実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージや各場面に適した衣服を選択し、自分らしく工夫している。 衣服素材の性能・着心地や構成について考え、まとめたり、発表したりしている。 衣服表示に基づいた適切な洗濯・仕上げ・保管について考え、まとめたり、発表したりしている。 資源としての衣服の循環を意識し、着なくなった衣服の適切な活用方法を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の表示から得られる消費者情報を、日常の衣生活の中で活用することができる。 衣服表示に基づき、適切な洗濯・仕上げ・保管ができる。 衣服の基礎的な補修を、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の入手、手入れ、保管など衣生活の成り立ちと衣服計画の重要性について理解している。 人間の生活と衣服のかかわり、衣服のおもな機能について理解している。 衣服の素材（繊維、糸、布）の種類や特徴について理解している。 衣服素材の性能・着心地や構成について理解している。 衣服の消費行動の注意点を理解している。 洗濯の特徴を科学的に理解している。 衣服の3R（リデュース・リユース・リサイクル）の重要性を理解している。
II 第3章 住生活と自立 1 住まいを見つめる 1. 住まいについて考えよう 2. 住まいの空間と家族の生活 3. 住まいの空間の構成 2 安全で健康な住まい 1. 安全な住まい 2. 衛生的な住まい 3 これからの住生活と住環境 1. みんなでつくるまち・住まい 2. 住宅事情と住宅政策 3. 住まいの維持と管理 4. 地球環境にやさしい住まい 5. 多様な居住形態と多様な住まい	<ul style="list-style-type: none"> 家族の生活に応じた適切な住まいについて考えようとしている。 安全性、快適性、持続可能性などの面から、よりよい住環境について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の生活に応じた適切な住まいについて考え、まとめたり、発表したりしている。 ライフスタイルや価値観に応じた適切な住居の主体的な選択について考え、工夫している。 自分の住生活を点検し、快適な住生活のための対策を具体的に考え、工夫している。 日本の住宅事情や課題を理解し、自分らしい住まい方を考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 平面図から、基本的な情報を読み取ることができる。 さまざまな人にとって快適な住環境について理解し、地域コミュニティと共生できるまちづくりを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいのおもな機能について理解している。 家族構成やライフステージの変化と住要求の関係について理解している。 安全で衛生的な住まいの条件について、科学的に理解している。 さまざまな人にとって快適な住環境について理解している。 日本の住宅事情や課題を理解している。

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
II 第4章 消費生活と経済 1 経済的な自立を目指して 1. 暮らしに必要なお金 2. 見えないお金との付き合い方 2 将来の経済生活を見通す 1. 計画的なお金の準備 2. リスクに備える 3 消費者の意思決定 1. 消費者市民になるために 4 消費者問題の発生と消費者の権利 1. 消費者問題の発生 2. 契約とは 5 消費者市民社会の実現に向けて 1. 家計の消費支出の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も含めた家族の生活費と家計との関係について考えようとしている。 ・生涯を見通した経済計画について考えようとしている。 ・消費者の権利や消費者支援の制度に関心をもち、自立した消費者として行動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の家計の特徴について、資料を活用して考え、まとめたり、発表したりしている。 ・消費者問題の被害の防止や救済について考え、まとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費行動に関する情報を収集・整理することができる。 ・自分の消費行動の社会への影響力を自覚し、適切な意思決定ができる。 ・消費者市民社会の実現に向けて、自立した消費者として主体的に行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 ・消費者信用の適切な活用について理解している。 ・消費者問題について理解している。 ・消費者の権利や責任、消費者支援の制度について理解している。
II 第5章 ライフスタイルと環境 1 持続可能な社会の実現を目指す 1. 持続可能な社会 2. 地球環境保全のための社会づくり 2 消費者としてできること 1. 地球にやさしい消費者になろう 2. 身近な生活から持続可能な社会をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した消費行動について具体的に考え、行動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を目指して自分のライフスタイルを見直し、環境負荷の少ない生活の工夫について、考えたり、まとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を目指し、自分のライフスタイルについて見直すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の暮らしが地球環境に与える影響について理解している。 ・地球環境保全のための社会づくりの重要性について理解している。
人生を設計してみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自己のライフスタイルや生活資源の有効活用の視点から将来の生活設計について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活資源を有効に活用した生活設計について考え、工夫している。 ・自己のライフスタイルの実現を目指して、生活設計を考え、まとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活設計を具現化するために必要な情報を収集・整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解している。 ・生涯を見通した生活設計の重要性を理解している（リスクへの対応や回避など）。
学んだことを生活に生かそう (ホームプロジェクトと学校家庭クラブ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」について関心をもち、主体的に学習活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活上の課題を見だし、その解決を目指して、科学的に探求し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の実践に必要な知識を身に付けている。